2020（R2）年度「学校評価」

学校法人 三位一体会　暁の星幼稚園

目的

・より良い幼稚園教育を目指して、運営状況を評価し、園運営の改善を図る。

・評価結果等を広く保護者等に公表し、理解、協力のもと連携を深め、地域に愛される幼稚園づくりを進める。

2019 年度に実施した学校評価の結果を受け止めて、2020 年度の改善に努めてきた実践を振り返り、課題を明らかにして今後の取り組に活かして、教職員の資質の向上に努めていく。

教育理念

暁　の　星　幼　稚　園　は

「いつも喜んでいなさい　絶えず祈りなさい　どんなことにも感謝しなさい」

これこそキリスト・イエスにおいて神があなたがたに望んでおられることです

（テサロニケの信徒への手紙１ 5:16～18）

この聖パウロの勧めを日々生きていくことをめざし

キリスト教カトリックの精神に基づいて

1　神からいただいた いのち に向き合います

2　家庭と協力して子どもたちを育みます

3　モンテッソーリ教育を通して、自立を援助します

4　社会の中で生きていく基礎を培います

5　成し遂げる強い意志、希望をもって、未来に向かう心を育てます

Ⅰ　教育目標

大切にする
やり遂げる　→　子どもを育てる
喜び合う

・神を身近に感じながら祈る心と「ありがとう」「ごめんなさい」「いいよ」が自然に言え、自分や周囲の人、周りのものすべて（家族、友だち、自然、言葉や文化等）を大切にする心を育みます。
・いのちの尊さ、自然の不思議さ、美しさ、神様の愛、人の優しさに気づき、感謝し、平和を祈る心を育てます。
・自分で「おしごと」を選び、自ら発見できる楽しさと自信、出来るまでやり遂げようとする強い心を培い、自立へ導きます。
・縦割りクラスのなかで、見習うこと、待つこと、赦し合うこと、人のために奉仕すること、共に喜ぶことなどを学び、思いやりや社会性の基礎を培います。
・言葉で自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、喜びや、悲しみを共感できる心を育てます。
・先生や友達と共に過ごす喜びの中で、皆と仲良くして、心身の健やかな成長を目指します。

Ⅱ　~~2019~~ 2020 年度の重点目標と教職員の具体的な取り組み

重点目標　「コロナ過における保育実践上の工夫」

感染拡大対策に万全を期し、子どもたちの心豊かな成長を援助するために「気づき、受け止め、寄り添う」。

具体的な取り組み

1　本園教育の特色を生かす園内研修の充実を図る。

(1) 研修と共通理解を図る話し合いを大切にし、心身にゆとりをもって交わる。
(2) 一人ひとりの人格、目の前の今の姿を丸ごと受け止める。
(3) 尊い命と天性をもって自立する子どもたちから学び、寄り添って共に成長していく。

2　コロナ対策による様々な制約の中、子どもたちの明るく成長する姿を、早く、正しく保護者に伝えるよう情報発信をこまめにする。

HP の情報をこまめに更新し、個人情報保護に留意して発信する。園だよりを工夫し、特に園からのお知らせをこまめに出す。職員みんなで子どもたちの様子を写真にとり HP にアップする。

毎月の園長のお話や保護者と会う際に、頑張っている様子、可愛らしいエピソードなどを保護者に伝えるようにする。保護者と一緒に子どもの成長を喜んだり、悩んだり、気軽に話せる関係を、一層深めていく。

・保護者に伝えたい情報は毎月の園だよりで、また園児個人やクラスのことはその都度担任から、伝えているが、園行事や集まりを通してできるだけ直接見てもらうようにする。
・情報や、何かがあったときは、すぐに教師間で伝えあい、終礼で共通理解を図る。

今年度の反省

1　今年度の日常活動や行事等における教師の支援の在り方や経験を通して、自分にとって役立ったこと、意見や反省など書いてください。

・
・
・
・
・

「自己評価」と「学校関係者評価」

「自己評価」実施人数：常勤教諭８名

＜項目ごとに８名の自己評価（A、B、C、D）を集計し、最多の評価を項目の評価とする。＞
評価の分野をⅦ分野とし、Ⅵまでの 23 項目を４段階評価とした。Ⅶは自由記述とす。
A…よくできている　B…概ねできている　C…少しできている　D…ほとんどできていない
Ⅰ～Ⅲ分野については、参考資料として各教員の**個人努力項目と評価**を加えた。

「学校関係者評価」人数４名〈保護者２名、教職員を除く評議員２名〉
〈8 名の「自己評価」を基に、評価委員会で協議し評価する。〉
「自己評価」Ⅵまで分野毎に、各項目を総括し、４段階評価をする。
最後に、関係者評価委員会で、Ⅶ(自由記述)も参考にし、関係者評価委員の総評を加える。

参考（以下は昨年度の自己評価です。　同項目でも、加除訂正もＯＫです。）

教員共通評価項目(Ⅶ分野 23 項目)の自己評価

Ⅰ　子供たちのために「気づく」取組み

R2　関係者評価

No.	項　　目			
1	日々の子ども達の表情、言葉や行動、様子から、変化や反応をよく観察する。	B		B
2	子ども一人ひとりの成長の姿を共有し喜び合う。	A		
3	神に絶えず祈り、神の慈しみに感謝する。	C		
4	何に困っているのか、表情の変化をよく見て声をかける。	B		
5	担任だけでなく、他の教師の気づきももらって、総合的に判断する	B		

No3 の評価 C についての関係者会議における考察

個人努力項目と評価

1　外遊びなどで先を見通しながら子どもたちの動きを見守る。　B
2「気づき」を教師間でその都度、また日々の終礼などを通して共通理解し、分かち合っている。　B
3　保育室の環境整備や教材補充の必要に目をとめ、子どもが困らないようにする。　B
4　職員間の連絡をよく取り、自分のクラスだけでなく他のクラスのこどもも助けられるように準備する。　C
5　クラスで困った時に、他の先生方に助けを求め連携をとる。　C
6　準備や片付けなど細かいことに目をとめ、丁寧に行う。　C
7　子どもたちをよく観察し、よく知る。　B
8　出来ないことをどうしたら出来るかゆっくりと、子どもと考え、先生たちとも悩む時間を持つ。　C
9　出来るようになったことを一緒に喜び次につなげる。　A
10　どうしてできないかを一緒に考え、前向きな気持ちで活動に取り組めるようにする。　C

Ⅱ　子供たちの気持ちや心を受け止める

R2

個人努力項目と評価

6	喜怒哀楽を共にできる仲間づくり，　思いやり、やさしさをはぐくむ。	B		B
7	縦割りクラスの中で助け合い、学び合い、育ち合う関係を築いている。	A		
8	子どもたちの小さな祈りに感動できる。	A		
9	１日を通して友達の良かったこと、悲しかったことをクラスで分かち合う。	B		

1　臨機応変に子どもの今にかかわっている。　C
2　行事を通しての達成感、喜び、出来るようになったこと、成長を保護者とともに喜ぶ。　A
3　子どもたちの「やりたくない」「嫌」という気持ちを受け止め参加できるように促す。　B
4　何が嫌だったのか、悲しかったのかよく話を聞き受け止めの言葉をかける。　B
4　子どもたちの小さな発見や気づき、ふとした一言に気づけるよういつも心に余裕を持つ　B
5　子どもに合った、関わり方をし、子どもが発信した言動から更なる展開を考える。　C
6　トラブルがあった時はお互いの気持ちをよく聞き、平等にたち、意見を受け入れ、子どもたちとどうするか、納得のいく解法を自分たちで出せるようにする。　B
7　家庭での子どもの気持ちも知り、対応に生かす。　B
8　子どもの素直な気持ちを受け止め、どんなことでも否定ばかりしない。　B
9　今、何に困っているのか表情の変化をよく見て声を掛ける。　B
10　子どもの今の興味点を探し、お仕事や外遊びに取り入れ、楽しさ、意欲を引き出す。　B

Ⅲ　一人ひとりに寄り添う　（日々の成長に希望を寄せ、愛情を持って接する。）

10	子どもとかかわり方で気になることを、早めに相談するなどして解決している。	A		A
11	独りぼっちになる子どもへの配慮を工夫している。	B		
12	特別な支援が必要な子どもへかかわれる体制である。	B		
13	各クラスに常に２、３人の教員が配置できる体制である。	A		

個人努力項目と評価

1　何かに一歩踏み出せない子に寄り添い、不安なく物事に取り組めるようにする。　B
2　子どもが興味のあることや「なんで？」に関わり、夢中になっていることを受け止める。　B
3　今日はこの子どもとゆっくりお仕事をしようと決め、補助の先生に全体を見てもらう。　C

Ⅳ　情報発信、家庭や地域との連携

14	保護者へ幼稚園での園児の様子を分かりやすく説明している。	B		A
15	保護者は本園教育に理解を示し、よく協力してくれる。	A		
16	ＨＰ更新、情報発信の創意工夫に意識を向け、担当者に協力している。	A		

Ⅴ　研修と学びの共有

17	各種園外研修に課題をもって参加している。	A		A
18	研修で得たものを活かし、自己研鑽に努めている。	B		
19	研修の報告会を持ち、学びを共有し、資質、技能を高めようとしている。	A		

Ⅵ　特色ある取り組み

20	重点目標の意識化と振り返りを行っている。	B		B
21	カトリック理念の教育、方針に基づいた日常の教育に心がけている。	B		
22	モンテッソーリ教育の良さを見学者や保護者に自信をもって説明できる。	A		
23	子どもたちの為に常に教具、環境を整え、準備している。	B		

Ⅶ　教育活動全般（自由記述）（青字は昨年度）

1　子どもたちにとってもっとも嬉しかったことと思えること

・自分で選び、喜んで挑戦でき、達成出来たこと。
　お仕事ができるようになった、苦手なものが食べられるようになった、逆上がりができるようになった

など、小さな成長を日々子どもたちと喜びながら行事にもつなげることができたこと。

・行事を終える毎の達成感、自信、成長の喜び。
運動会、クリスマス会を通して子供達同士で助け合い考えながら１つのことをやり遂げることは、凄いパワーも努力もいること。１人１人が大切な役ということを理解し、当日は一人ひとりの最大限の力を出し切ることができた。

・縦割りならではの憧れと、やる気を持って取り組めたこと。

・自分が受け入れられたと思った時。友達や先生、親に認められたこと。

・日々の積み重ねが実ったと感じたとき。

・友達、先生と毎日楽しく過ごせたこと。

・行事、お仕事を通して、たくさんの経験をして初めて知ったこと。そうなんだ！と自分で発見できたこと。それを家族に伝えたり、自分のものにできたこと。

2　１年間で、子どもから学んだ最も大切なこと

「祈る」ことについて

・本当に祈っているとは、よく思われたいとか良いことを言おうではなく、心から思ったことを神様にお話していることなのだと納得できた。

行事の練習に取り組む子どもの姿から

・年長児 14 人と少ないなか、運動会やクリスマスお祝い会で構成や見せ方など悩むことが多く、子ども一人ひとりに大きな負担をかけたはずだが、嫌な顔をせず「一人が二人分頑張ろう」「家で練習してきた」「こうしたらもっと良くなる」「早く本番やりたい」「練習が終わるのがさびしいな」と**嬉しそうにやる気をもって練習**に参加してくれた。そんな子供たちの姿に励まされた。

・協力、認め合う、赦す心、温かさ、**相手を好きになること**。「ごめんね」「いいよ」「ありがとう」と**素直**に言える心。

・お友達に優しく話しかけている時、怒っている悲しそうな時、頑張っている時、喧嘩をして泣いている時、子どもの心は素直できれいだと感じた。

こどもの姿は教員の日常の言動を映す鏡

・子ども同士の話の中で、教師が話すように互いに話しているのを聞いて、嬉しくもあり、責任も感じた。お友達の良いところが見つけられ、互いに認め合う様子を見ると、心穏やかになれる。**自分も素直な心で誰とでも接していけるようにしたい。**

優しい子どもたちによる温かなクラスづくり

・今年のＡさんは少なかった。しかし、いつも一緒にいて、誰一人寂しい思いをすることなく、声を掛け合い誘い合って遊んでいた。その仲の良さはＢ，Ｃ，Ｄさんのお手本になり、温かな雰囲気の中で喧嘩もなくすごした。意見が違えば「自分はこう思ったけど、友達はこう言っている」と言える子が多い。自分が１番ではなく、相手のことを考えられる優しい子どもたち。独りぼっちを見つけると「誘ってあげようよ」「良いよ」と言い、弁当は自由席なのだが一度も席の取り合いで喧嘩になったことはない。思いやりがあり相手が好きでいられる。自分がしてもらって嬉しいことは相手にもしてあげる。そんな子どものように私自身もなりたい。教員同士の関係もすぐに子供に伝わるのでお互いに協力し合い、温かいクラス作りをしたい。

感動する純粋な心と熱中できる意欲・力

・ほんの小さな物事に子どもたちは感動する心があり、こどもの素直な純粋な心に出会ったこと。
わかるまで最後まで諦めない気持ちの力。

・熱中してわかるまで続けて「わかった！」喜びを味わうまで、続けられるみなぎる意欲。

3　今後の課題とし取り組みたい気づき

・教具の提供などで変わって(進化して）いることをみんなで実際にやってみるとよい。

・子どもへのかかわり方等の園内研修の時間を取り、テーマを決めて集中して深め合う。

・園内の実技研修では、ポイントを押さえ、時間をかけず、効率よく共通理解をしていけると良い。

・初任者が感動した子供へのかかわり、困難だったりをもっと活発に本音で話せるとよい。

関係者評価委員の総評

2019年度の重点目標へ向かって取り組んでいる具体的な取り組みについて

○「絶えず祈る」の項目に対して、自分に厳しく評価したのではないか。

○　全体的に先生方の雰囲気はよく、上手くいっている。

○　終礼について

・気づいたことをしっかり話し合う時間を持っている。

・情報交換と共有ができている。職員間が言いやすい環境であってほしい。

・聞きにくい部分もあるのではないか。柔軟な姿勢で理解し合える雰囲気であってほしい。

・もう少しフランクに話し合う場があるほうが良い。

○　子どもとの関わり、寄り添いについて

・子ども同士でのいろいろな場面に、フリー教員の立場での出会いが多く、子どもたちの話を聞いて余裕をもって、気持ちを受け止めることができた。

・受け止めるには自分の心のゆとりが必要である。

・自由に話せる環境で、真剣に受け止めてもらえるからこそ悩みを出せる。

○　園長の朝礼での目標が気持ちを一つにする。

○　園長は「祈り」を大切にし、子どもを見つめている。

○　対保護者ではなく、「子供にとって何が必要か」の保育者の視点の強化、根本的な柱を大切にして欲しい。比較ではなく、子ども一人ひとりの成長のリズムに合わせ、「待つ」大切さなど、伝え続けることがより良い幼稚園につながる。

○　先生方は子どもたちのために学んでくださっていると感じる。

○　社会の風潮は昔と変わっているが、「暁の星は変わらない」という自負が教員にある。その良さを残しながら、どんな変化にも対応できる、**子どものための幼稚園**を目指したい。